□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ（ HCG
ニューズレター（ 2023年度 No. 4)
http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

～　目次　～
◆HC賞授賞のご報告
◆HCGシンポジウム2023 開催のご報告
◆2024年総合大会開催のご案内
◆FIT2024（第23 回情報科学フォーラム） 投稿のご案内
◆HC特集号投稿のご案内
◆研究会活動紹介(MVE)
◆研究会活動紹介(ICB)

==========

HC賞授賞のご報告

- 庶務幹事：布川清彦（東京国際大学）

2023年度ヒューマンコミュニケーション(HC)賞授賞式が，2023年12月12日(火)に開催されました．今回のシンポジウムは会場となった「北九州コンベンション協会 AIM3F」において現地開催(ハイブリッド)となり，受賞者コメント，記念撮影がおこなわれ，受賞者に賞状が贈呈されました．
HC賞は，過去 1 年間に開催されたヒューマンコミュニケーショングループ（HCG)の第一種研究会（HCS, HIP, MVE, WIT)における技術研究報告を対象とし， 各研究専門委員会に設置された審査委員会の厳正なる審査の下に選出されます．受賞件数は，対象期間の発表 25 件につき 1 件，以降 50 件ごとに 1 件を基準としています．そして，HCGが授与する賞の中で最も権威の高い賞となります．本年は次の6件の発表がHC賞を受賞されました．

○ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS)
・発表者：髙木幸子（常磐大）・坂本暁彦（東京電機大）
題目：発話行為論と日本語における条件付き謝罪 ～ 加害責任の重さが誠実性評価に及ぼす影響 ～
資料番号：HCS2023-42
・発表者：高橋 理央(日大)，吉田 悠(日大)
題目：商品パッケージの視触覚による印象が購買に与える影響
資料番号：HCS2022-83

○ヒューマン情報処理研究会（HIP)
発表者：深田 明弘，　横井 健司（防衛大）
題目：フラッシュラグ効果における非対称な位置ずれの時空間特性解析
資料番号：HIP2023-17

○メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会（MVE)
・発表者：松井彩里・青山一真・雨宮智浩・葛岡英明・鳴海拓志（東大）
題目：嗅覚刺激と鼻腔外電気刺激によるVR空間内の進路誘導効果
資料番号：MVE2022-59
・発表者：巻口誉宗・佐野文香・松元崇裕・望月理香・山本隆二（NTT)
題目：超鏡空中像におけるポインティング手法に関する基礎検討
資料番号：MVE2022-118

○福祉情報工学研究会（WIT)
発表者：権藤優季・中村祐哉・齊藤剛史（九工大）・伊藤和幸（NRCPD)
題目：神経難病患者の発話シーンに対する口形認識

資料番号：WIT2022-24

いずれの研究も研究視点，手法，結果の新規性，独自性および有効性，各分野への発展性や応用可能性などの観点から高く評価されました.
受賞一覧はシンポジウムのweb（下記 URL）でも公開しており，webでは審査委員の講評もご覧いただくことができます.
https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2023/award/
また，各発表の技術研究報告も是非あわせてご一読ください.

==========
HCG シンポジウム2023 開催のご報告
　- 企画幹事：三上弾　（工学院大）

今年度で21回目を迎えたHCGシンポジウム2023が2023年12月11日(月)～2023年12月13日(水)の日程で，福岡県北九州市の北九州観光コンベンション協会AIM-3Fにて開催されました．小倉駅から徒歩6分という立地の良さに加えて，すべてのセッション会場が1フロア内の隣接する部屋に配置され，活発なコミュニケーションが実現しました.

コロナ禍の落ち着きもあり，対面を中心としたハイブリッド開催としましたが，今年度の発表件数は114件(招待講演1件，チュートリアル講演1件，一般講演:112件（うち32件はインタラクティブ発表のみ））と前年と同程度となりました．また，参加者登録も205名と，こちらも前年とほぼ同程度の規模で開催することができました．ご発表，ご参加いただいた皆様，ありがとうございました.

今年度も三日間のインタラクティブセッションに対して，参加者の投票により決定されるインタラクティブ発表賞（最優秀・優秀・学生優秀 ）が贈られました．受賞者一覧がウェブサイトに掲載されておりますので，ご覧ください.
https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2023/

次回のHCGシンポジウム2024は，2024年12月11日(水)～2024年12月13日(金)の日程で開催される予定です．次回は，石川県金沢市での開催を予定しております．みなさまのご参加をお待ちしています.

==========
2024年総合大会開催のご案内
　- 企画幹事：赤坂文弥（産総研）

2024年電子情報通信学会総合大会の開催をお知らせいたします.

・会期：2024年3月4日（月）～ 8日（金）
・会場：広島大学 東広島キャンパス（東広島市）
・スローガン：コミュニケーションが育む絆

最新の情報につきましては下記をご覧ください.
https://www.ieice.org/jpn_r/activities/taikai/general/2024/index.html

電子情報通信学会では、毎年春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています．総合大会はヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）に加え，学会を構成する5つのソサイエティ（基礎・境界，NOLTA，通信，エレクトロニクス，情報・システム）が一堂に会して開かれる大規模なものです.

今回の総合大会においては，3月5日に Welcome Party として，電子情報通信学会に所属する各研究専門委員会の紹介や企業紹介などを実施する予定です．また，3月5日（火）にはプレナリーセッションが開催されます．本セッションでは，電子情報通信学会会長の森川博之氏による講演の後，学術奨励賞授賞式・教育功労賞授賞式・フェロー称号贈呈式といった一連の表彰式が執り行われます．また，セッション後半では基調講演2本が予定されています．最初に「人とITの共創による価値創造」との題目で木谷昭博氏（マツダ（株）執行役員）にご講演頂い たのち ，「対話型文章生成AIの過去・現在・未来（仮）」と題して鈴木潤氏（東北大学教授）からご講演頂きます．プレナリーセッションだけでなく例年，一般セッション，多数の企画講演セッションが行われています．ぜひこの機会に，皆様お誘い合わせの上，ご参加をご検討下さい．多くの方々のご参加を心よりお待ち申し上げております．

==========

FIT2024（第23 回情報科学フォーラム） 投稿のご案内
　- 企画幹事：赤坂文弥（産総研）

第22回情報科学技術フォーラム FIT2023が， 9月6日 から 8日まで，大阪公立大学中百舌鳥キャンパスにおいて開催されました．

本フォーラムは，IPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが，従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し，タイムリーな情報発信，活気ある議論・討論，多彩な企画，他分野研究者との交流などを実現することで，2002年から毎年継続して開催しております．今年度も，活発な質疑が行われました．

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2023 船井業績賞を受賞された喜連川優将氏（情報・システム研究機構 機構長）の受賞記念講演も行われました．

次回は，2024年 9月4日 から 6日 に，広島工業大学 五日市キャンパスで開催予定となっています．

==========

HC特集号投稿のご案内
　- HC特集号編集委員長：近藤一晃（京都大）

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループではヒューマンコミュニケーションに関する論文を和文両分冊の特集号で同時に募集しております．和文論文は和文論文誌A分冊に，英文論文は英文論文誌D分冊に区別して投稿していただくことになりますが，採否通知などのスケジュールや編集委員会は同じであり，審査は分冊によらず均一です．

それぞれの分冊におけるCFPは以下の通りです．またウェブページからも確認頂けます．
皆様の奮ってのご投稿をお待ちしております．

和文Ａ分冊
https://www.ieice.org/jpn_r/information/schedule/journals.php?type=01

英文Ｄ分冊
https://www.ieice.org/eng_r/information/schedule/journals.php?type=

04

ヒューマンコミュニケーション特集（和文論文誌(A)英文論文誌(D)合同）論文募集

ヒューマンコミュニケーショングループ編集委員会

情報通信技術（ICT）の進歩によって私たちの生活の利便性は向上する一方で，生活の多様化・複雑化に伴いプラスの側面ばかりとは限りません．技術の進化は私たちの一人一人の生活を変えるとともに，他者や生活環境との関わり方をも変えていきつつあります．このような状況のもと人が技術・社会・環境と相互に豊かに関わるためのコミュニケーションの研究を横断的に議論する必要性から，ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）では，各種研究会およびシンポジウムを定期的に開催し会員の交流の場を提供してきました．さらにヒューマンコミュニケーションに関連する研究成果を論文として広く情報発信するため，和文・英文論文誌のA，D分冊のいずれかで毎年特集号を発行してきました．
今回は，この特集号をより発展させるために，和文論文誌A分冊と英文論文誌D分冊と合同で特集号を企画しました．つまり本特集号では，ご自身の研究内容やニーズに応じた言語を選んで研究成果を投稿・発信することができます．和文論文は和文論文誌A分冊に，英文論文は英文論文誌D分冊に区別して投稿していただくことになりますが，スケジュールや編集委員会は同じであり，審査は分冊によらず均一です．独自の論文誌を有していないヒューマンコミュニケーショングループの会員にとって，本特集は日頃の研究成果を発表する絶好の機会です．また研究分野として深い関連性を有する基礎・境界ソサイエティ，情報・システムソサイエティの会員にとって，有益な情報提供の場となっています．日頃の研究成果を論文として広く国内外に情報発信する絶好の機会ですので，是非投稿を御検討ください．

１．対象分野
・ヒューマンコミュニケーション基礎
・ヒューマン情報処理
・メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎
・福祉情報工学
・ヒューマンプローブ
・情報の認知と行動
・魅力工学
・コミック工学
・ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション
・リアルタイムコミュニケーション言語
・その他，ヒューマンコミュニケーションに関する全般

２．スケジュール
・投稿期限　2024年 4月22日
・最終採否通知 2024年 10月30日
・論文誌発行　2025年 3月号

３．投稿方法
以下は和文論文誌Aに投稿する場合です．英文論文誌Dに投稿する場合は，そちらに記載されている手順・内容に沿ってください．

・電子情報通信学会論文投稿システム（下記URL）を用いて「A 基礎・境界：[特集　HA] ヒューマンコミュニケーション」へ電子投稿してください．
https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_j.aspx
・追加のディジタルデータを論文の査読プロセスにおける参考資料として添付したい場合は，下記に従って送付してください．
(1) 論文本体は完結する首尾一貫した内容であることが求められ，添付され

るディジタルデータはあくまでも査読プロセスにおける参考資料として利用されます.
(2) たとえディジタルデータを添付した論文が採録されたとしても，論文誌やそれに準ずるメディアにはその論文のみが掲載され，添付されたディジタルデータは公開されません.
(3) ディジタルデータの容量上限については以下のようにさせて頂きます.

(a)1ファイルあたりの上限は50MBとします.
(b)1論文あたりのファイル容量・ファイル数に上限はありませんが，音声・動画の場合は５分程度を上限としてください.
(4) 投稿論文へのディジタルデータの添付（提出）方法は以下の通りです.

(a) ディジタルデータを収録したメディア（CD/DVDあるいはUSBメモリ）を事務局まで投稿締切日までに送付してください.
(b) 必ず投稿した論文のタイトルおよび著者等を分かりやすく表記し，投稿論文とメディアとが正しく対応づくようにしてください.

４．特集号編集委員会
委員長　　近藤 一晃（京都大学）
副委員長　酒向慎司（名古屋工業大学）
幹事　　高嶋和毅 （東北大学），松村耕平 （立命館大学），安藤英由樹（大阪芸術大学），大塚和弘（横浜国立大学）
委員　川崎 真弘（筑波大学），小川 浩平（名古屋大学），大本 義正（静岡大学），平山 高嗣（人間環境大学），川本 一彦（千葉大学），中澤 篤志（京都大学），宮城 愛美（筑波技術大学），前田 義信（新潟大学），田中 貴紘（名古屋大学），山西 良典（関西大学），酒井 元気（日本大学），木村 篤信（東京理科大）

５．付記
(1) 論文採録の場合には，掲載料をお支払い頂きます．期限までに掲載料の支払いがない場合は採録取り消しになりますのでご留意ください.
(2) 投稿者に非会員が含まれている場合には，この機会に入会することを勧めます．著者全員が非会員の場合、非会員掲載料が適用されます．ただし，招待論文に関してはこの限りではありません．入会の案内はこちらを御覧下さい.
（https://www.ieice.org/jpn_r/member/join.html）

６．問い合わせ先
近藤 一晃（京都大学）hcg-tokushu-kanji@hcg.ieice.org

Special Section on Human Communication VI

The IEICE Transactions on Information and Systems announces that it will publish a special section entitled “Special Section on Human Communication VI” in June 2025.

Human Communication Studies focus on the role played by Information and Communication Technologies (ICTs) in human communication processes. It is committed to improving the theory and methodology concerning the adoption, use, applications, effects, and the psychological, social, and policy implications of ICTs. Areas of research include computer-mediated communication, new media, social media, augmented and virtual reality, assistive technology, technology studies, big data, crowdsourcing, privacy, digital news, crisis, and other technologically mediated social interaction and networking at all levels of analysis (interpersonal, interpersonal,

group, organizational, national, and international). The objective of this special section is to publish and overview recent progress in the interdisciplinary area of human communication. We call for papers that make an innovative and original contribution to our understanding of ICTs, with a focus on the technology itself within the context of human communication. But the topics are not limited to this domain. The related interests are highly welcomed. All submitted papers are subjected to the same review processes as those papers accepted for publication in the regular issues.

1. Scope
This special section aims at timely dissemination of research in these areas. Possible topics include, but are not limited to:
- Human communication sciences
- Human information processing
- Media experience and virtual environment
- Well-being information technology
- Human probe
- Informatics science on cognition and behaviors
- Verbal and nonverbal communication
- Attractiveness computing
- Comic Computing
- Language as Real-time Communication

2. Submission Instructions
- A manuscript should be prepared according to the guideline given in “The Information for Authors” (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html). We encourage the authors to use the IEICE Style File (https://www.ieice.org/ftp/index-e.html). The preferred length of the manuscript is 8 pages for a PAPER and 2 pages for a LETTER with the format determined by the IEICE Style File.
- Submit the manuscript through the IEICE Web site (https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx). Choose “[Special-HC] Human Communication” in the menu of “Journal/Section” in the submission page. Do not choose “[Regular-ED] Information and Systems” or other special sections.
- Authors must agree to the "Copyright Transfer, Article Processing Charge Agreement, Notices from the IEICE, and Privacy Policy" via electronic submission.
- Submission deadline of the manuscript is 22 April 2024.
- Notification of acceptance is due on 30 October 2024.

Contact:
Special Section Editorial Committee: hcg-tokushu-kanji@hcg.ieice.org

3. Special Section Editorial Committee
Guest Editors-in-Chief: Kazuaki Kondo (Kyoto University)
Guest Associate Editors-in-Chief: Shinji Sako (Nagoya Institute of Technology)
Guest Associate Editors: Kazuki Takashima (Tohoku University)

Kohei Matsumura (Ritsumeikan University)
Hideyuki Ando (Osaka University of Arts)
Kazuhiro Otsuka (Yokohama National University)
Masahiro Kawasaki (University of Tsukuba)
Kohei Ogawa (Nagoya University)
Yoshimasa Ohmoto (Shizuoka University)

Takatsugu Hirayama (University of Human Environments)
Kazuhiko Kawamoto (Chiba University)
Atsushi Nakazawa (Kyoto University)
Manabi Miyagi (Tsukuba University of Technology)
Yoshinobu Maeda (Niigata University)
Takahiro Tanaka (Nagoya University)
Ryosuke Yamanishi (Kansai University)
Motoki Sakai (Nihon University)
Atsunobu Kimura (Tokyo University of Science)

* Upon accepted for publication, all authors, including authors of invited papers, should pay the article processing charges covering partial cost of publication around November 2025. If payment is not completed by 15 December 2025 your manuscript will be handled as rejection.
* The standard period of 60 days between the notification (of conditional accept) and the second submission can be shortened according as the review schedule.
* If there are non-members among the authors, we recommend that the authors take this opportunity to join the IEICE. For detailed information on the IEICE Membership Application, please visit the web-page, https://www.ieice.org/eng_r/join/individual_member.html. If all authors are non-members, the article processing charge for non-members will be applied, except for invited papers. Furthermore, authors will not receive their own advance publication article, which is a service provided only to IEICE members.
* Open Access Publishing: All papers published in the IEICE Transactions on Information and Systems since January 2008 have been opened to all readers in the world through J-STAGE. https://www.jstage.jst.go.jp/browse/transinf
* IEICE will begin a multilingual (16 languages) translation trial of IEICE Transactions Online in April 2024. Please visit https://www.ieice.org/eng/s_issue/cfp/triale.pdf for details.

==========

研究会活動紹介(MVE)
- MVE 委員長：清川清(奈良先端科学技術大学院大学)

メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会(MVE)では，名称にエクスペリエンスとあるように，技術による新たな体験やその価値に着目するユニークな研究会です．メディアを利用した新体験・新発見，およびVRをはじめとする今そこにない環境によるヒューマンインタフェース基盤に関連する研究成果発表と専門家による意見交換の場を提供しています．委員の約3割が産業界から参画いただいていることも特色のひとつです．

コロナ禍で注目されたオンラインメディアはMVEの方向性にピタリと符合したため，過去数年は積極的に関連テーマを取り扱ってきました．具体的には，「リモートエクスペリエンスの魅力」(2021年9月)，「変化する生活での五感に訴えるオンラインメディアとその評価」(2022年3月)，「メタバースエクスペリエンスの魅力」(2022年9月)，「五感に訴えるオンラインメディアとその評価」(2023年3月)などのテーマを設定しました．また，MVEが取り扱うトピックにおいてもAIによる技術革新が著しいため，「生成系AIの魅力と留意、メディアエクスペリエンス」(2023年9月)，「メタバースと深層学習」(2024年1月)といったテーマを設定しました．
ポストコロナの時代になりオンラインメディアの爆発的ブームは落ち着きま

したが，MVEが取り扱うトピックの重要性は今後も高まっていくだろうと考えています．

MVEでは，研究成果の価値を技術的側面だけではなく，利用者体験の側面からも議論するよう心がけています．研究成果が社会実装されることを意識し，社会のどのような問題を解決し，どのような価値を生み出そうとしているのかを明確にするよう，デザイン思考のアプローチも取り入れながら建設的な議論を行います．このように，研究の方向性や着地点を重視することから，アイデア段階や萌芽的な研究発表も歓迎しています．

例えば，「ショート発表」では2枚の原稿で発表が可能ですし，学生や若手研究者向けに「萌芽セッション」を設定しています．また，文章形式で専門家による論文へのコメントやアドバイスが得られる「メンタリング制度」も用意しており，優れた発表に対しては「MVE
賞」の表彰を行っています．

MVEは非常に間口が広く，どのような発表に対しても暖かく迎え入れる文化があります．皆様のご研究をさらに発展させるために，必ずや有益な気付きを得る機会になることと思いますので，是非，積極的なご投稿をお願いいたします．

MVE研究会ウェブサイト:https://www.ieice.org/~mve/

==========

研究会活動紹介(ICB)
　-ICB 委員長：柏岡秀紀(情報通信研究機構)

情報の認知と行動研究会（ICB）は，2014年に，旧先端医科学技術時限研究専門委員会（AMS）及び旧人間とICT倫理研究専門委員会（EHI）を統合し設立された研究会です．その興味は，医療を発端としていますが，健康・生活分野の占める割合が広くなり，最近ではサステナビリティやまちづくりも視野に入れています．ICBは，近年，著しく進捗した最新の脳機能および生体情報計測技術を利用し，情報の認知から行動に至る機構を脳科学に基づき科学的に解明することを目的としています．また，その上で，得られた成果を医療及びコメディカルの領域に活用するのみにとどまらず，日常生活の中で提示される様々な情報から適切な行動をとるための仕組みを考察し，適切で効果的な情報提示や運用あり方，しくみを考えていきます．
ここ数年は，委員がそれぞれの領域で活動することが多い時期で、少人数での研究会を行い，新たな研究を創成するためのインキュベーション的活動を重視しています．コロナ禍で，委員を中心とした発表や集まってディスカッションを行う機会は減りましたが，ヒトの行動に関わるデータを安全に管理するためのIDとその運用体制に関する研究，リハビリテーション効果の定量的評価を実現するための計測方法の開発研究など，研究会で新たに扱うテーマが産まれ，研究会を活発化させる準備を進めています．2022年と2023年は委員も運営に携わる形で、デジタル庁からも講演者を招いたオンラインシンポジウム「メディカル DX ・ヘルステックフォーラム」の後援を行いました。

今後，隔月で委員によるワークショップの開催を中心に，情報の認知，意思決定，行動にいたる機構を脳科学に基づき科学的に解明すると共に，医療及び日常生活において有効な生活環境を構築するための情報表現等に関わる研究開発や規格策定に関して，活発に議論を進め，広く活動を行っていきます．他の研究会との接点も多くあり，ICB単独の活動だけでなく，連携した研究活動も活発に進めていく予定です。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について，

詳しくは
HCG ホームページ http://www.hcg ieice.org/ をご覧ください.
―――
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 20 2 3 IEICE, All Rights Reserved.
□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□
―――

このメールアドレスは送信専用となっております。返信は受付できませんので
ご了承ください。
電子メールによる情報配信を必要としない方は，マイページにアクセスし
左メニューにある各種申請の「メールアドレス／メール配信変更」から
配信停止の手続きをお願い致します。
ただし、すべての情報配信を希望されない場合でも、選挙や会費のお知らせ等の
学会からの重要なお知らせについては配信されますので、ご了承ください。
マイページ：https://cmweb3.ieice.org/Kjn/JP/